

# 災害多発時代を生き残るには？

東日本大震災から1年が過ぎました。この震災は、その後の原発事故の問題を含め、被災地はもちろん、日本全体の経済や生活に影響を与えています。この震災はどのような災害だったのかを理解し、今後に生かす必要があります。

## ～震災を振り返る～

震災の数日前から、宮城県沖では地震が多発していました。また震源地は、過去多くの津波地震を発生させた場所でした。明治時代の津波地震では死者・行方不明者約2万人。昭和時代の津波地震では約3千人の死者・行方不明者がでています。そして多くの地震学者が、30年内での巨大地震の発生を予測していました。政府機関や地元でも、十分な警戒をされていたはずですが、未曾有の被害となっていました。

過去の災害を踏まえ、津波地震が起きた際、『この家は、この土



△津波によって流された船（東日本大震災）

地は大丈夫なのか？』、また『どこへ、どのように避難すべきなのか？』を、家族や地域が共有しなければいけません。

東日本大震災と同等規模の地震は、再度必ずやってきます。沿岸部でも内陸部でも、地震被害を受けない場所はありません。まず、自分の住む場所にどんな危険性があるのかを、きちんと理解する必要があります。

## ～避難せずに被災してしまう理由～

大きな自然災害の警報を耳にした時、人は「自分だけは大丈夫。」「大したことはない。」という意識を持つことがあります。そのため、自治体が防災無線で避難を促しても、避難行動をとらない人もいます。これは自分にとって嫌なこと、面倒なことを、意識から排除しようとする心理が働くからだと考えられています。また過去に津波警報が何度も発せられたにも関わらず、実際には何の被害も受けな



△地震で倒壊した家屋（日本海中部地震）

かったことや、「周りの人も逃げないから大丈夫。」と集団行動に縛られ、自分1人が避難することへの不安も関係しています。しかし1人が行動を起こし、周囲に促すことで、より多くの人命が救える可能性もあります。

当管内においても、29年前の5月26日に起きた、日本海中部地震